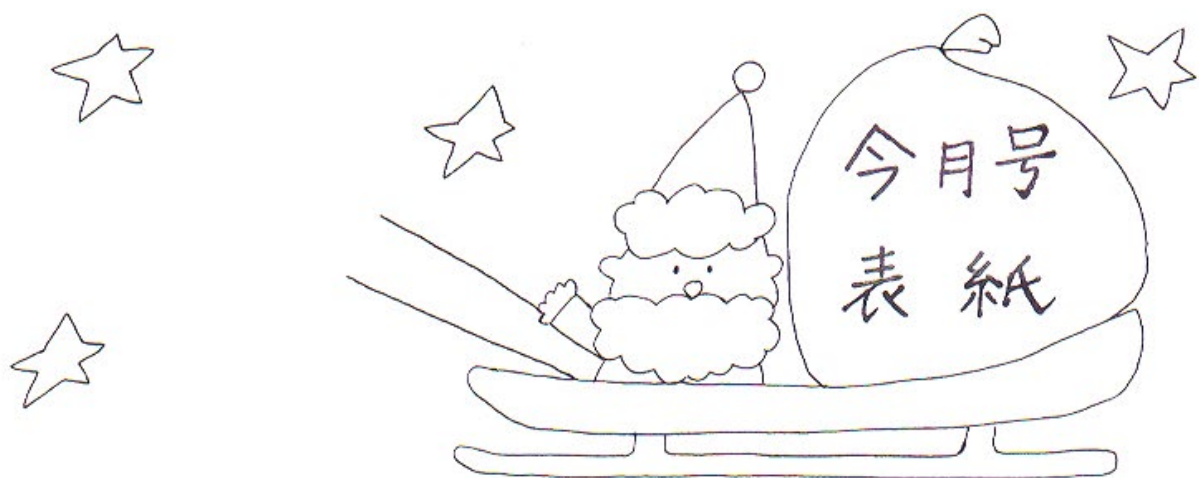


とよ・たち 美肌通信
12月号



vol. 89

ひぐち しゅん



2017年 12月号 !! 今年最後のとよたち
表紙は どうぶつさんたちが楽しそうに
あそんでいる絵です !! クリスマスのお祝いを
しているのかな？

戦いゴッコ遊びが好んで、ゲームや
計算をする事が得意な男の子が
描いてくれました ☆ ☆ ありがとうございます。

院長はじめ スタッフ一同

心より感謝いたします 😊



ある目標に向か、チームがスタートした時、
ゴールを目指した仲間が、一人の脱落者も出すことなく
ゴールすることは無い。

むしろ、スタートした時の仲間の殆んどが最後まで残ることはないと言える。

これは恐らく多くのリーダーや経営者が経験していることである。

もし功を成し遂げた時に、スタートした仲間全員が最後まで残っていたらそれは最上の喜びといえよう。

しかし普通はそれは無いし、例え一人だけでもスタート時の仲間が残っていたとしたら、それはその二人にしか分かち合えないうれしさを感ずることになるだろう。

殆んどの場合には途中で抜けた人材を充填しその事業を進めていく。

そしてゴールに到達するために必死に苦楽を共にするチームを構成していく。

これは倒えると山頂を目指して4-4で
登山をすることと似ている。
多くの者は途中で足を止め下山したり滑落
したりする。
それは、リーダーが見ている山頂が見えなからたり、
見ていたとしてもその険しさに歩みを止めたりして
しまうからだ。

しかしそんな中でも背負ってでも連れで行きたい
部下が実際にいることも事実である。
だがそれは、良くて一人か二人かいい所の様な気が
する。これを繰り返したから更なる山頂を目指
す。

僕は山頂を共に目指している仲間を現在進
行形で大切にし、逆説的にはそうでもない
ものとの差を明確にする。
そして山頂からの景色をゴールした仲間達と分
かち合う。
それはゴールしたもののみが肉体と精神を通
して理解し合える成幸福感であると確信する。

院長、拝